

医療安全と質を保証する患者状態適応型パス(PCAPS)

H22 年度 PCAPS 研究会 シンポジウム

## 臨床知識構造化ツールとしての PCAPS

- PCAPS 活用の実際 -

(H22 年度厚生労働科研 がん臨床研究(質評価指標開発研究:飯塚班)報告含む)  
厚生労働科学研究(がん臨床研究)推進事業 共催:財団法人 日本対がん協会

### プログラム

日時：2011 年 3 月 5 日 (土) 10:00 ~ 16:55 終了予定 (途中昼休憩 1 時間)

会場：東京大学本郷キャンパス 安田講堂

### はじめに

医療の質・安全保証の実現をめざして、臨床プロセスの構造的可視化をすすめる PCAPS 臨床知識コンテンツの開発と活用には、医療エキスパート、研究者、医療関連組織、PCAPS-IMT コンソーシアム会員事業者、検証調査協力病院のボランティアな協力があります。これらの方々がやろうとしていることは、医療の質の向上であり、それを実現するシステムを社会に実装することです。

H22 年度は、実用可能レベルの電子コンテンツがいくつかの領域で完成し、これらコンテンツの実装が、病棟・病院・地域・在宅の領域で検討されました。この活動を通して、実装に必要とする導入モデルの構築が進展しました。良質な医療提供を持続的に実施するためには、業務設計・運用フロー設計が必要となります。また業務を支援する各種ツール類(患者説明文書・ワークシート・患者状態監視手段・実施記録文書など)が必要となります。それらが見え始めてきて、実際の運用をイメージできる実装のショールームが、導入した病院や地域に準備できることになりました。

臨床知識の標準化のために、学会とガイドラインの関係が整理されました。PCAPS を用いることで、学会ガイドラインの整備を支援するしくみを設計できるのではないのでしょうか。加えて、医療の質改善につながる、がん診療プロセスの質評価指標の開発と計測システムの設計に向けて、研究をすすめています。

研究メンバーは、PCAPS の社会実装によって、医療の質を享受できる社会にしたいと考えています。本シンポジウムにぜひご参加していただき、意見交換をお願いいたします。みなさまのご参加をお待ちしています。

PCAPS 研究会 代表：飯塚悦功

副代表：水流聡子・棟近雅彦

主催：PCAPS 研究会

## 午前の部

司会：棟近雅彦（早稲田大学）・水流聡子（東京大学）

10:00-

開会の挨拶:PCAPS 研究会のねらい 飯塚悦功（東京大学）

10:10-10:30

:PCAPS による臨床知識の構造化戦略と活用戦略

水流聡子（東京大学）

10:30-11:30

:PCAPS 実用化に向けた、実臨床での運用試行事例

- 急性期医療: 飯塚病院(脳外科)  
名取良弘(飯塚病院)
  - 手術室: 飯塚病院手術部  
伊藤勲・緒方博美・浦田吉広・井手洋陽・成松慧(飯塚病院)
- 周産期医療: トヨタ記念病院(産婦人科)  
小口秀紀・宮崎のどか(トヨタ記念病院)・白石三智(日本バプテスト病院)
- 回復期医療: 大久野病院  
進藤晃(大久野病院)
- 訪問看護  
佐野けさ美(スギメディカル株式会社)

11:30-12:00

- 1:臨床知識の構造化:診療知識の共有を目指して

- 腎臓内科: 透析導入パスから腎不全管理パスへの拡張  
藤井直彦(県立西宮病院)
- 脳梗塞急性期治療における標準化活動
  - 脳梗塞治療における PCAPS 活用の意義 福田賢治(聖マリア病院)
  - 脳梗塞治療における血糖管理 佐藤雄一(聖マリア病院)
  - リハビリ 井手睦(聖マリア病院)、  
加藤省吾(東京大学)

12:00-13:00 昼休み(60分)

『医療の質安全保証に向けた臨床知識の構造化(2)』

患者状態適応型パス [臨床知識の精緻化・一般化・実装] (日本規格協会) 定価: 5,670 円(税込)

飯塚悦功・水流聡子・棟近雅彦監修 患者状態適応型パスシステム研究会編著



## 午後の部

13:00-14:00

### - 2: 臨床知識の構造化: ポスターセッション(ラウンド形式, 1領域質疑込 10分)

座長:

- ・ ストリーム : 箕浦貴則(仙台医療センター)
- ・ ストリーム : 調整中
- ・ ストリーム : 勝田俊郎(北九州市立医療センター)
- ・ ストリーム : 調整中

発表コンテンツ(カッコ内は掲示のみ) 発表者等の詳細については別紙を参照してください。

|   |  |   |   |
|---|--|---|---|
| 【ストリーム】<br>・腎不全<br>・小児下気道感染症(小児科)<br>・小児急性下痢症(小児科)<br>・川崎病(小児科)<br>・精神疾患<br>・COPD<br>・呼吸器内科 | 【ストリーム】:<br>・脳外科<br>・手術室<br>・新生児管理(周産期)<br>・母体管理(周産期)<br>・外科系看護モジュール | 【ストリーム】:<br>・脳梗塞急性期<br>・脳梗塞急性期(血糖管理)<br>・リハビリ<br>・回復期医療<br>・訪問看護<br>・小児アトピー性皮膚炎 | 【ストリーム】:<br>・乳がん<br>・前立腺がん<br>・がん薬物療法<br>・大腸がん<br>・頭部がん<br>・リンパ浮腫 |
|---|--|---|---|

~~~~~  
休憩(10分)  
~~~~~

14:10-15:00

### : 他の研究プロジェクトにおける PCAPS の展開 [パネルディスカッション]

- ・ パネルリーダー: 飯塚悦功(東京大学・厚生労働省がん臨床研究飯塚班代表)
- ・ パネリスト:
  - ・ 中山健夫(京都大学・厚生労働省診療ガイドライン作成研究(中山班))
  - ・ 若尾文彦(厚生労働省第3次対がん総合戦略研究事業(若尾班))
  - ・ 梶野浩樹(旭川医科大学・小児循環器学会)

15:00-15:35

### : 構造化知識の調査・研究開発への活用

- ・ 生体肝移植チームの報告  
山田貴子・中田知廣・田中紘一(神戸先端医療センター)
- ・ 慢性閉塞性肺疾患(COPD)における急性増悪時のステロイド使用  
茂木孝(日本医科大学呼吸ケアクリニック)

15:40-16:50

### : 「がん診療プロセスの質評価モデルへの活用」 [パネルディスカッション] (「厚生労働科研 がん臨床研究(飯塚班)」成果報告)

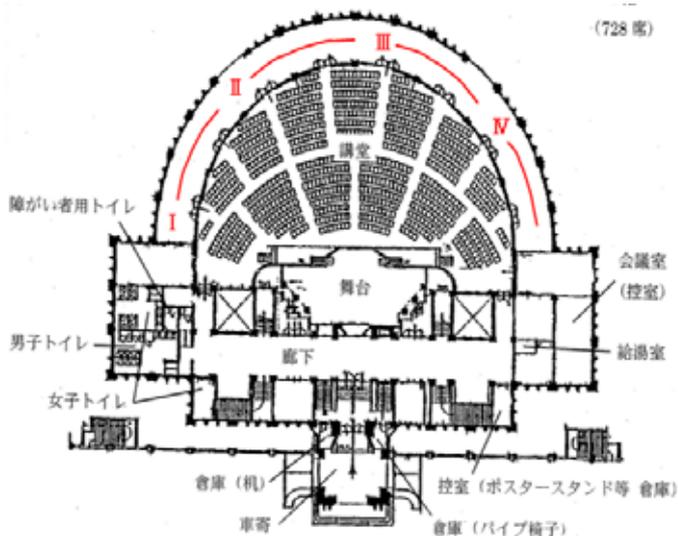
- ・ パネルリーダー(研究代表者): 飯塚悦功(東京大学)
- ・ パネリスト(分担研究者):
  - ・ 水流聡子(東京大学)
  - ・ 蒲生真紀夫(大崎市民病院)
  - ・ 名取良弘(飯塚病院)
  - ・ 青儀健二郎(四国がんセンター)
  - ・ 矢野真(武蔵野赤十字病院)
  - ・ 成田淳(長野中央病院)
  - ・ 吉井慎一(ひたちなか総合病院)
  - ・ 吉岡慎一(兵庫県立西宮病院)

16:50

### : 代表総括

飯塚悦功(東京大学)

安田講堂内ポスター展示場所



【ポスター展示会場】

ポスターは本会場を囲む外廊下に展示してあります。  
赤字はポスターセッション時のそれぞれのストリームの  
場所となります。

【シンポジウム会場】

本会場：東京大学本郷キャンパス 安田講堂  
 昼食会場：  
 ・研究会メンバー：工学部 8号館 702号室・706号室・708号室  
 ・パネリスト：安田講堂内の会議室（控室）  
 懇親会会場：工学部 14号館 429号室

シンポジウム運営組織

|            |  |  |
|------------|--|--|
| 代表         | 飯塚悦功（東京大学）   |  |
| 副代表        | 水流聡子（東京大学）, 棟近雅彦（早稲田大学理工学術院）   |  |
| 運営<br>スタッフ | <PCAPS事務局><br>加藤 省吾（東京大学）<br>小柴 研一（東京大学 共同研究員）<br>黒田 幸清（東京大学 学術支援専門職員）<br>佐藤 典子（東京大学 学術支援専門職員） | <学生スタッフ><br>下野 僚子（東京大学博士課程）<br>藤井 健人（東京大学修士課程）<br>伊藤 岳大（東京大学修士課程）<br>原田 美沙子（東京大学修士課程）<br>浦西 郁哉（東京大学修士課程）<br>尾方 優花（東京大学工学部）<br>秋山 友毅（東京大学工学部）<br>末政 憲司（東京大学工学部） |

問い合わせ先：

PCAPS事務局

E-mail：Office\_PCAPS@umin.ac.jp

TEL：03-5841-7301 FAX：03-5841-7276

本研究事業 HP：<http://plaza.umin.ac.jp/~A-epath/index.html>

注意：カメラ撮影はご遠慮ください。PCAPSは各種特許申請済みです。